Established Strengths, Sustained Progress

事業基盤を支える確かな強み
と
次の成長に向けた着実な歩み

2011年3月2日

宝ホールディングス株式会社
代表取締役副社長　大宮　正

I.　TaKaRaグループ ～宝ホールディングス連結～
会社概要、事業構造、基本戦略

II.　宝酒造グループ ～酒類・調味料事業～
事業概要、事業戦略

III.　タカラバイオグループ ～バイオ事業～
事業概要、事業戦略

IV.　財務戦略

会社概要

- 商号: 宝ホールディングス株式会社
- 設立: 1925年
- 上場市場: 東証・大証一部 (コード番号: 2531)
- 本店所在地: 京都市
- 代表者: 取締役社長　大宮 久
- 資本金: 13,226百万円
- 時価総額: 114,074百万円 (2010年3月31日現在)
- 売上高: 190,525百万円
  営業利益: 8,572百万円
  純利益 income: 4,677百万円
  (2010年3月期)

海外オフィス

企業理念

自然との調和を大切に、
醗酵やバイオの技術を通じて
人間の健康的な暮らしと
生き生きとした社会づくりに貢献します。

沿革

1842　酒造業を開始（清酒の製造・販売を開始）
- 1864　焼酎・みりんの製造を開始
- 1912　新式焼酎（連続式蒸留焼酎）を発売
- 1920　清酒「松竹梅」を発売

1925　寶酒造株式会社　設立
- 1949　東京証券取引所に上場
- 1967　中央研究所　設立
- 1972　中国酒の輸入販売を開始
- 1977　宝焼酎「純」　発売

1979　国産初の制限酵素を発売
- 1983　米国宝酒造　設立
- 1984　タカラcanチューハイ　発売
- 1993　遺伝子増幅法として幅広く利用されているPCR法の全世界にわたる関連特許ライセンスを取得
- 1995　高効率遺伝子導入法であるレトロネクチン法を開発
- 2001　全量芋焼酎「一刻者」　発売

2002　持株会社体制へ
- 2004　タカラバイオ株式会社　東証マザーズ上場
- 2005　米国ベクトン・ディキンソン社からクロンテック事業を買収
- 2006　宝ヘルスケア株式会社　設立
- 2010　フランス最大規模の日本食材輸入卸会社であるフーデックス社の株式を取得

中央研究所

1930年代のポスター

タカラcanチューハイ

制限酵素

レトロネクチン®

事業構造

(2010年9月30日現在)

宝ホールディングス株式会社
経営企画、広報、IR

持株比率:100%

持株比率:100%

持株比率:70.9%

宝酒造株式会社

マーケティング力
販売ノウハウ

子会社21社

宝酒造グループ

酒類・調味料事業

2010年3月期業績
(単位:百万円)
売上高: 166,969
営業利益: 7,129

宝ヘルスケア株式会社
[設立: 2006年9月]

健康食品事業

タカラバイオ株式会社
[東証マザーズ: 4974]

健康志向食品の
開発力

子会社9社

タカラバイオグループ

バイオ事業

2010年3月期業績
(単位:百万円)
売上高: 19,325
営業利益: 553

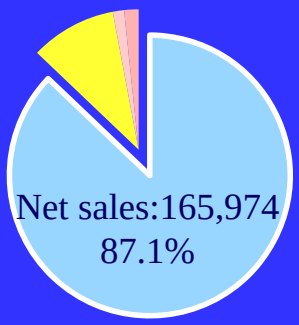
その他子会社3社

事業概要

▼ セグメント別売上構成比(外部顧客売上高)

2010年3月期
(単位:百万円)

■ 宝酒造グループ(酒類・調味料事業)



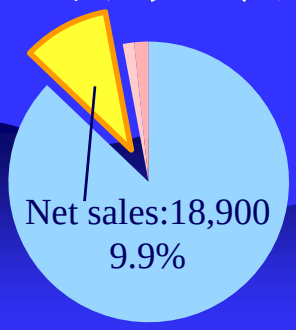
焼酎

清酒

ソフトアルコール飲料

調味料

■ タカラバイオグループ(バイオ事業)

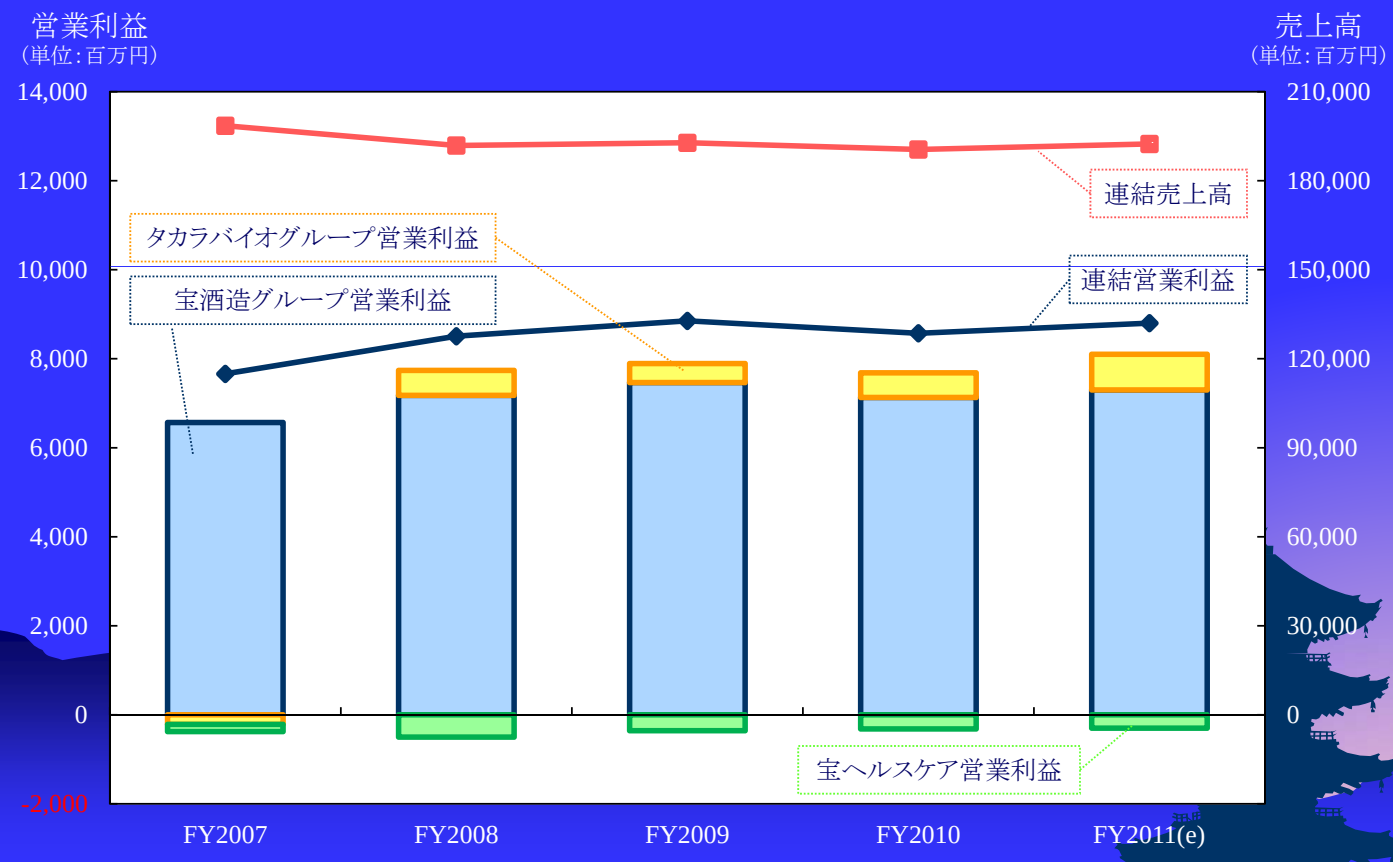


遺伝子工学研究分野
1)研究用試薬
2)理化学機器
3)研究受託サービス

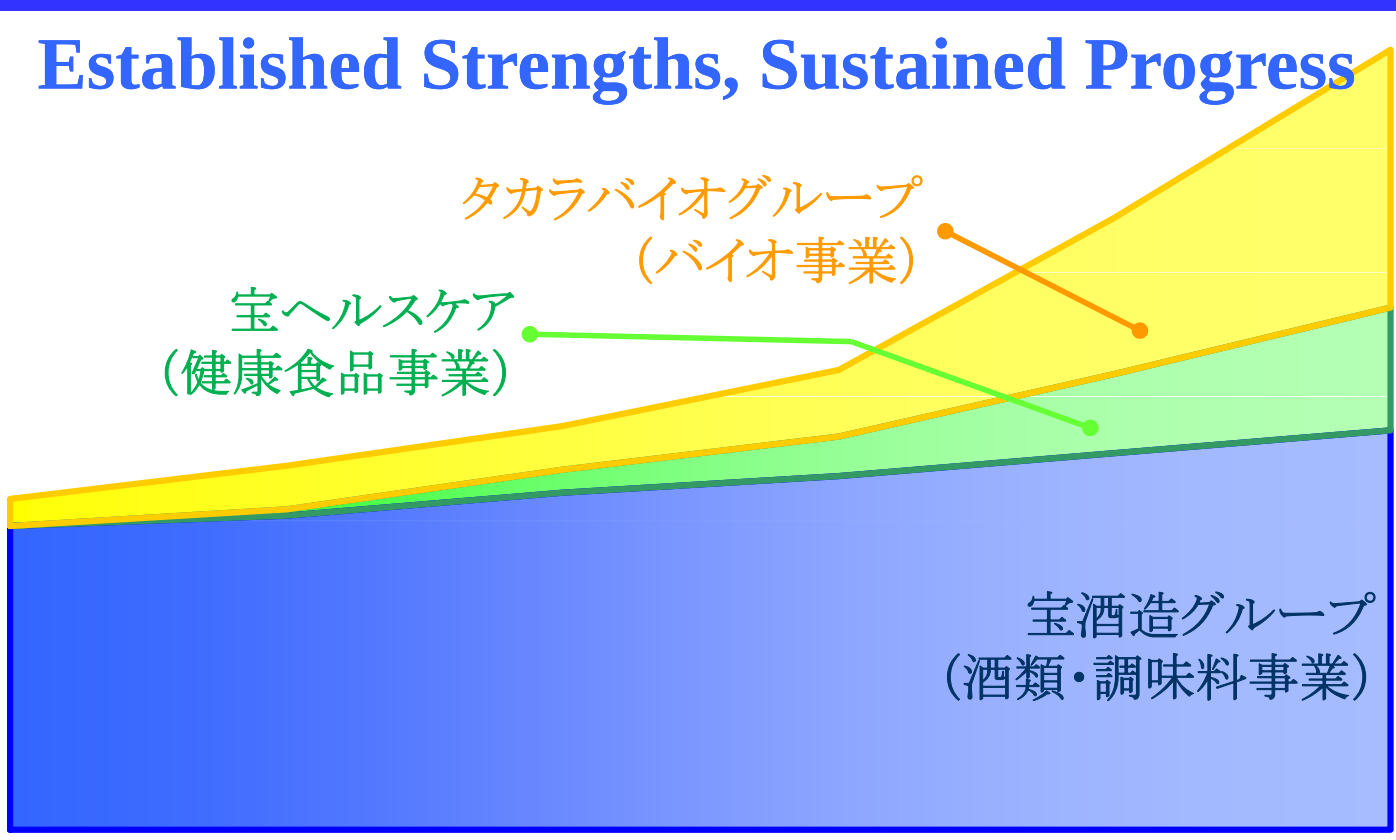
医食品バイオ分野
1)健康志向食品
2)キノコ

遺伝子医療分野
1)遺伝子治療
2)細胞医療
(TaKaRaグループの
成長戦略事業)

5年間の業績サマリー



基本戦略



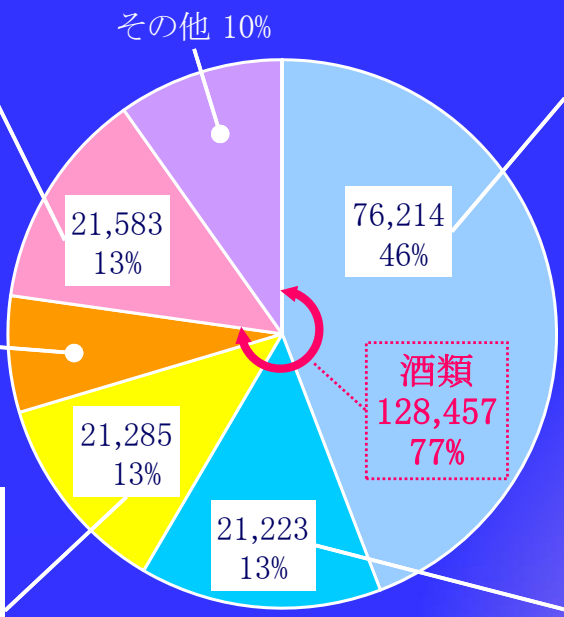
宝酒造グループ

酒類・調味料事業

事業概要

▼ カテゴリ別売上構成比：宝酒造グループ

2010年3月期
(単位：百万円)

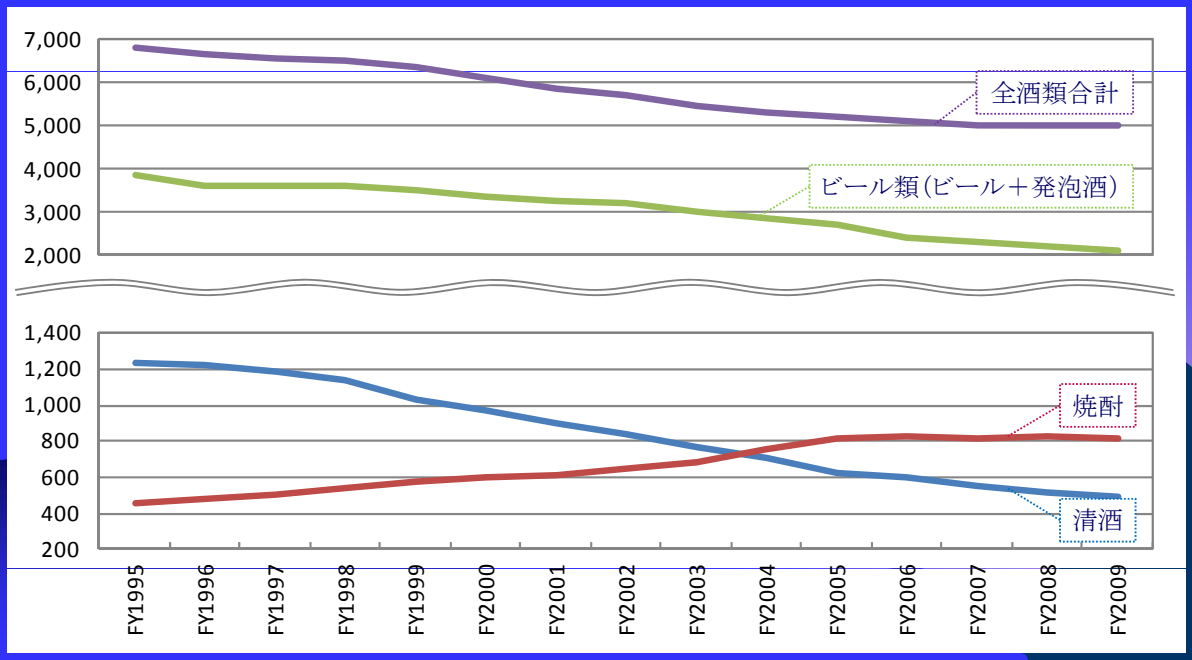


市場環境

➢酒類市場の縮小

▼ 酒類消費金額の推移(15年間)

(単位:十億円)

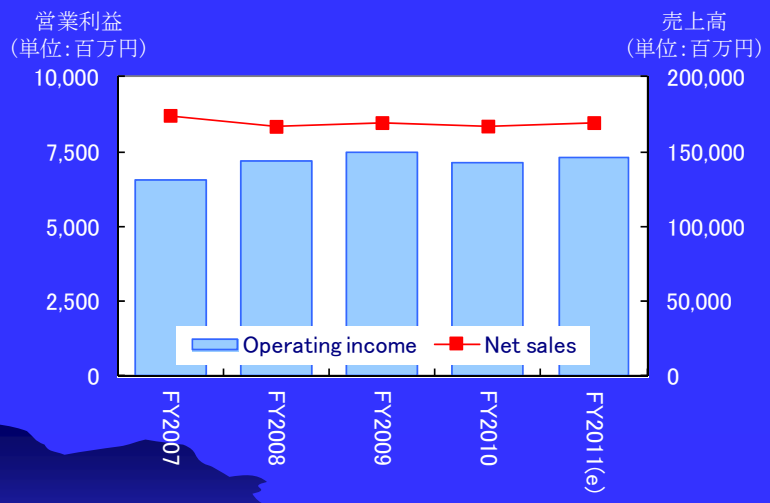


出所:酒販ニュース(醸造産業新聞社)

業績

➢市場が縮小する中、安定的な業績を維持

▼ 5年間の業績サマリー



2011年3月期業績予想: 2010年11月4日発表予想
売上高: 169,300百万円 (前期比+1.4%)
営業利益: 7,300百万円 (前期比+2.4%)

■ 市場シェア

(2009年1-12月)

カテゴリー	国内市場シェア	順位
焼酎	**14.3%**	**1位**
甲類	**29.5%**	**1位**
清酒	7.2%	3位
贈答市場 (一升瓶)		**1位**
ソフトアルコール飲料	11.4%	4位
みりん (1種)	**52.1%**	**1位**

出所:日刊醸造産業速報、
酒類食品統計月報(日刊経済通信社)、
宝酒造販売実績

基本戦略

➢収益基盤事業における利益の確保

▼ 国内酒類事業

- ■ 差別化された商品の開発・育成
- ■ 消費の二極化（高品質志向・低価格志向）への対応
- ■ コスト削減活動

➢成長事業の育成

▼ 加工業務用調味料事業

- ■ B to B ビジネスの拡大

▼ 海外事業

- ■ 北米・欧州・中国への事業拡大

国内酒類事業の商品戦略

高品質志向	低価格志向
こだわりゾーン	**スタンダードゾーン**
差別化されたこだわりの品質で消費者の高品質志向に応え、じっくりとブランド育成を行う商品カテゴリー	消費者の節約・低価格志向に応え、販売量の確保と収益基盤の強化につなげる商品カテゴリー
■ 主な商品 全量芋焼酎「一刻者」 本格麦焼酎「知心剣」 松竹梅「白壁蔵」＜生酛純米＞ など	■ 主な商品 極上＜宝焼酎＞ 焼酎ハイボール 松竹梅「天」 など

それぞれの消費者ニーズに応える強いブランドを複数もつことを目指す

加工業務用調味料事業

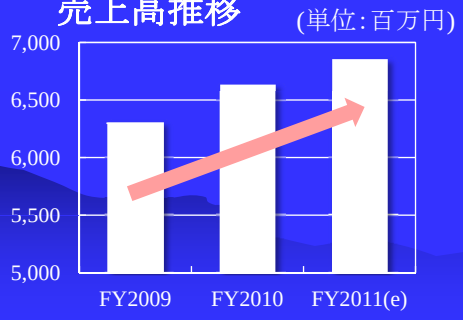
▼ 調味料事業の拡大

家庭用市場 ＋
- 加工食品市場
- 中食市場
- 飲食店市場

- 調味料加工業務用事業本部の設置（2006年4月）
- 技術支援体制の構築（2006年10月）
- 機能性と経済性を兼ね備えた加工業務用調味料商品の開発

東日本調味料
カスタマーセンター

■ 加工業務用調味料事業の売上高推移



低アルコール本みりん（左）
かつお節調味液（右）

海外事業

欧州
- 2010年4月　仏フーデックス社へ資本参加
- 日本食材の輸入卸売事業へ参入

米国
- 1983年　米国宝酒造設立
- 清酒・みりん等の製造・販売
- 米国清酒シェア1位

中国
- 1995年　宝酒造食品有限公司設立
- 清酒・みりん等の製造・販売

➢日本食文化を広め、清酒・みりん等の売上拡大を目指す

タカラバイオグループ

バイオ事業

事業概要

▼ カテゴリー別売上構成比：タカラバイオグループ

2010年3月期
(単位：百万円)

遺伝子医療分野

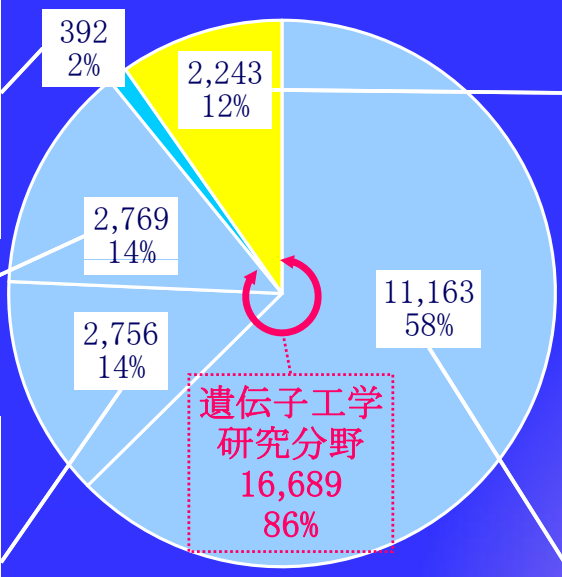
レトロネクチン®

細胞・遺伝子治療センター

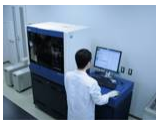
医食品バイオ分野

TaKaRa フコイダン カプセル

ホンシメジ



研究受託サービス



高速シーケンサー

理化学機器

リアルタイム PCR装置

研究用試薬

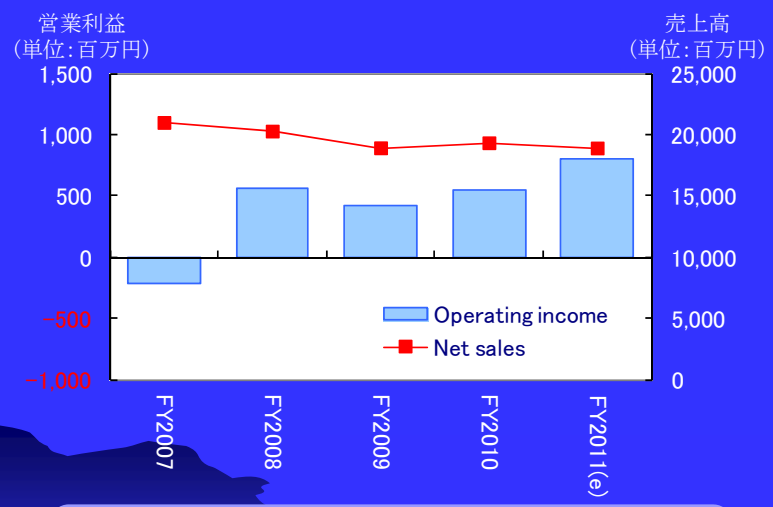
研究用試薬

クロンテック社製品

業績

➢安定的な黒字計上

▼ 5年間の業績サマリー



2011年3月期業績予想: 2011年1月28日発表予想
売上高: 18,900百万円 (前期比-2.2%)
営業利益: 800百万円 (前期比+44.6%)

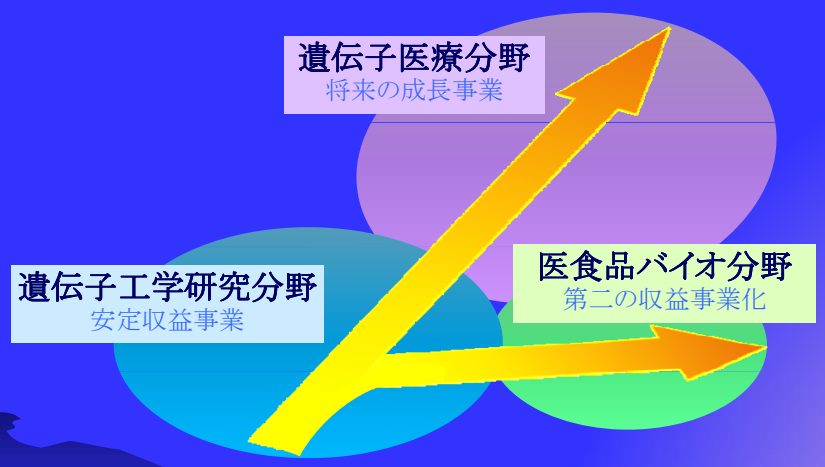
■ 2011年 バイオ企業番付

東		西
•中外製薬 •武田薬品工業 •タカラバイオ	横綱	•協和発酵キリン •第一三共
•エーザイ •大塚ホールディングス •ファイザー •田辺三菱製薬/ベネシス/バイファ •ロシュ・ダイアグノスティクス	大関	•アステラス製薬 •富士フィルムホールディングス •日本ケミカルリサーチ •ノバルティスファーマ

出所:日経バイオテク(日経BP社)

基本戦略

- ■ 遺伝子工学研究分野の事業拡大・安定化
- ■ 医食品バイオ分野の収益改善
- ■ 遺伝子医療分野における研究開発の推進



➢遺伝子治療・細胞医療の商業化

遺伝子工学研究分野

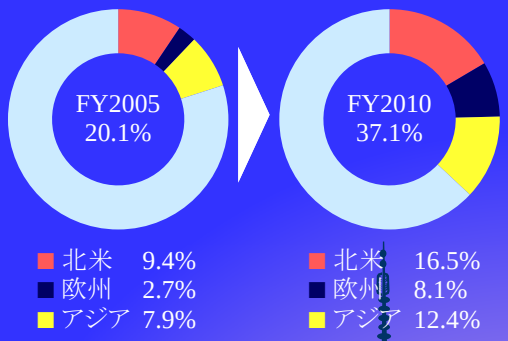
▼ 日本におけるリーディングカンパニー

- 研究用試薬市場で高いシェア

▼ クロンテック社の買収(2005年)

- 研究用試薬の製品ラインナップ強化
- 海外売上高比率の拡大
- クロンテック社製品の原価低減
  (クロンテック社製品の大連への製造移管)

■ 海外売上高比率



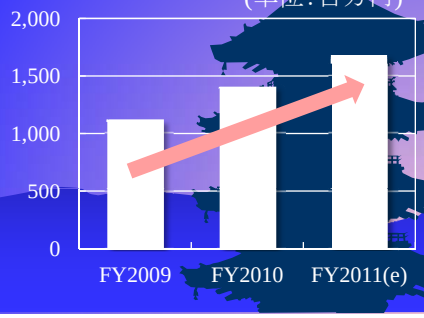
▼ 中国における事業拡大

- 1993年
  宝生物工程(大連)有限公司
  設立
- 生産拠点からマーケットへ

宝生物工程
(大連)有限公司

■ 中国国内売上高推移

(単位:百万円)



医食品バイオ分野

▼ 2012年3月期の黒字化を目指す

- キノコの自社販売およびコストダウンによる
  収益強化
- 健康食品の販売を宝ヘルスケア社へ移管
  (2006年9月～)

ハタケシメジ

ホンシメジ

▼ 宝ヘルスケア社を通じた健康食品の販売

タカラバイオの
独自の先端技術

＋

宝ヘルスケアが活用する
宝酒造のマーケティング力、販売ノウハウ

機能性食品素材の販売促進や製品化に
直結するアプリケーションデータの取得

ガゴメ昆布「フコイダン」

明日葉「カルコン」

TaKaRaフコイダンサプリ50

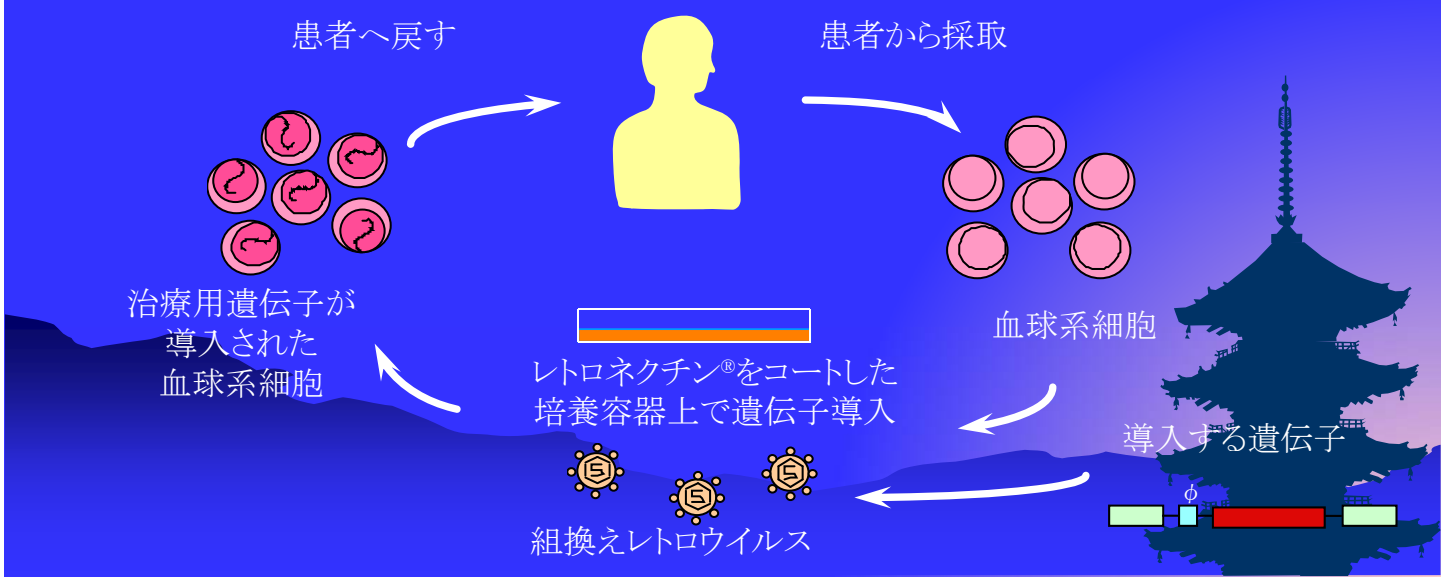
明日葉カルコン

遺伝子医療分野

▼ レトロネクチン法のライセンスアウト

- レトロネクチン法の全世界における独占的実施権を保有
- レトロネクチン法は、医療機関において50を超える遺伝子治療の臨床研究で採用され、さらに4つの民間企業に対してライセンスアウトを行っています。

〈レトロネクチン®を用いる遺伝子治療プロトコル〉



遺伝子医療分野

▼ タカラバイオグループで実施している臨床開発プロジェクト

遺伝子治療	対象疾患	提携先
HSV-TK遺伝子治療 (ドナーリンパ球輸注療法)	再発白血病	国立がん研究センター中央病院
HSV-TK遺伝子治療 (ハプロadd-back)	造血器悪性腫瘍	国立がん研究センター中央病院
TCR遺伝子治療: wtMA24	食道がん	三重大学医学部
TCR遺伝子治療: siMA24 (RN-T)	食道がん	三重大学医学部など
TCR遺伝子治療: siWT24 (RN-T)	脳腫瘍、造血器腫瘍、大腸がん	三重大学医学部など
MazF遺伝子治療	HIV	ペンシルベニア大学、鹿児島大学、 医薬基盤研究所
HF10	頭頸部がん	ピッツバーグ大学など

細胞医療	対象疾患	提携先
レトロネクチン®誘導Tリンパ球療法	食道がん、卵巣がんなど	三重大学医学部など
	肝細胞がん	京都府立医科大学
	難治性がん 肝細胞がん	天津医科大学 中山大学

財務戦略

財務戦略

▼ 第7次中期経営計画の財務戦略

(2009年3月期～2011年3月期)

既存事業における通常の投資に加え、
成長のための投資に資金を投下し、
そして積極的な株主還元を実施する

成長のための投資: 3ヵ年累計 100 億円以上

株主還元総額: 3ヵ年累計 100 億円以上
(これまでの2倍規模)

株主還元性向: 下限値 50 % *1

*1 以下の式で算出します:

$$\text{株主還元性向} = \frac{(\text{配当総額} + \text{自己株式取得額})}{\text{みなし連結当期純利益}^{*2}} \geqq 50\%$$

*2 みなし連結当期純利益 =
(連結経常利益 - 受取利息・配当金 + 支払利息) x (1 - 法定実効税率)

将来見通しに関する注意事項

この資料に掲載中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、様々な要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となりえることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。